

ティキ (その2)

田村 仁(十二才)

ティキが最初来たとき、まだ小さくてコロコロしていた。寝るときになって、ティキをおりにいれて寝たら、ティキは夜じゅうワンワンほえていた。けつきよく出してしまった。それからティキはベットでいっしょに寝ることになった。だから、足もとでティキが丸くなっているのが足が痛くなるところがめいわく。悪い時はベットを占領してしまうときもある。

特に、変わったことは、皆ティキの毛が落ちるため、前より三倍ぐらい掃除をするようになった。その代わり家はきれいになったということもないのである。そして、おおきく変わったのは外出の量。あまり外で食べることもなくなったし、家に帰る時間も早くなったことだ。ティキをそだててこうかいていることは、小さいときから「待て」を、ちゃんと教えておくべきだったと思っている。ティキをそだてたくらうはさんぼだ。毎日しなくてはいけないし、たまにストライキをおこして動かないときもある。そして、自転車で行くとき、近くに嫌いな犬がいて、その前でいつも全速力で走りだすので、ほとんど、

そこで転びそうになってしまう。

そして、ティキは、すこしわがままで、ベットでティキが一匹で遊んでいるとき、おもちゃがおっこちると、クーンクーンというワンとほえ、「とれ」と命令する。そして、なにもしないとワンワンほえるのである。そしたら、いないほうがいいのか、そうではない。やっぱりティキはなやんでいるときも、しゃべったりはしないが、なぐさめたりしてくれているような気がしたり、主人をうらぎらない。



田村仁